

ごみつと・SUN vol. 21



ごみ出し時の異業種交流。新型コロナ感染拡大で減っている事業家ごみ。

系

イラストと文 井上ヤスミチ

- ▶ 02 多摩 30 自治体 「「ごみ減量・資源化」比較 2019 年度
- ▶ 10 コロナ感染のリスクそして資源物の滞留
- ▶ 12 新たな食品リサイクル・ループの構築 (羽村)
- ▶ 14 会員さんってどんな人 「小金井市・林和夫さん」
- ▶ 15 ドイツのエコ No.21「思い出のハノーファーエキスポから 20 年」

ごみ・環境ビジョン21

〒184-0013

東京都小金井市前原町 4-11-15 井上方

tel 080-9291-3623 fax 042-383-1668

e-mail : gomikan21@docomo.ne.jp

ホームページ : <https://gomikan21.com>



本格稼働、目前！
羽村バイオガス発電所

新たな食品「リサイクル・ループ」の構築

アーキアエナジー株式会社 代表取締役 植田 徹也

*はじめに

わが国は現在、政府を挙げて「食品リサイクル」に取り組んでいる。弊社の掲げる「カロリー・リサイクル社会の構築」はバイオマスが本来持っているエネルギーを有効に利用し、食品リサイクル・ループを確立することを目的としている。それは、ただ施設を作るのではなく、「生産的に、また効率的に施設を運営し、経済性を高め、地域社会に貢献し、地域と共に歩む」という理念があり、政府が推進している食品循環資源の再利用の流れに寄与すべく、弊社はそれぞれのプロジェクトにおいて、「地元貢献度の高く、環境に配慮した都市型バイオガス発電所」を開発している。

この度、羽村バイオガス発電所（東京都羽村市）の竣工を終え、現在、試運転中で、徐々に稼働率を上げていき、2020年10月からのFIT売電開始に向けて進めている。

現在、申請手続き中の小牧バイオガス発電所（愛知県小牧市）のプロジェクトを並行して進めているが、弊社では、既存の牧之原バイオガス発電所（静岡県牧之原市）を含む3プロジェクト以外にも建設計画が進行中であり、順次着工を予定している。また、国内各地からのご相談とともに、海外からもノウハウ提供の依頼を受けており、今後、案件内容に応じて対応していく予定である。

*羽村プロジェクトの組成 ～現在に至る状況

2016年4月に当該地を取得したが、当時すでに食品リサイクル・食品ロスなどの問題が顕在していたのだが、まだ一般的に知られているものではなく、以下のような課題があった。

- ① 地元の住民および近隣企業、行政との合意形成を図ることがむずかしい。
- ② 許認可手続きにおいて時間がかかる。

③ 廃棄物の処理業やバイオガス発電について実績も乏しく資金調達がむずかしい。

④ そもそも、設備コストが高く、補助金がないと成り立たない。

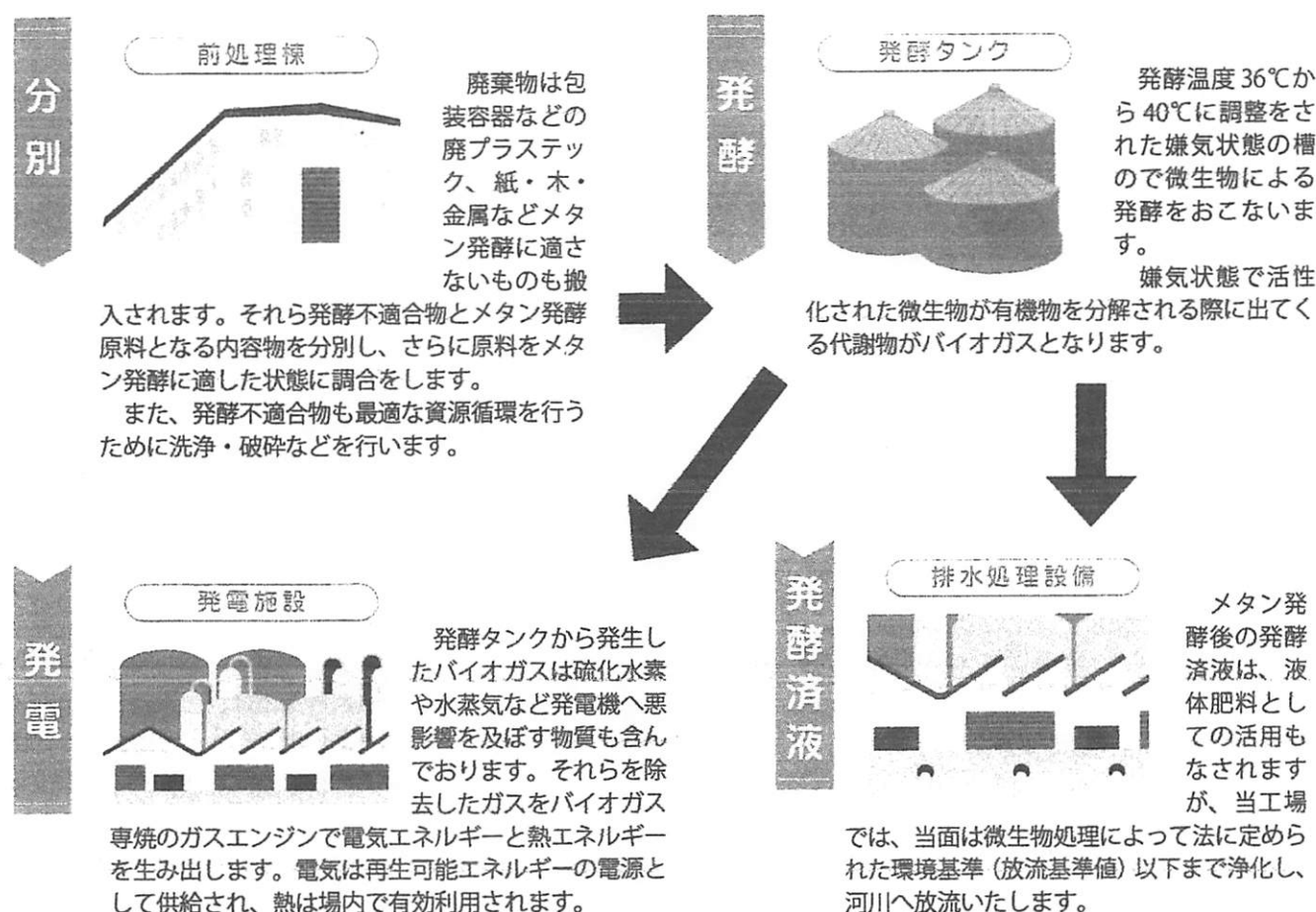
それらに加えて、多摩地区でも既存の食品廃棄物処理事業者における臭気問題等もあったため、計画当初から、さまざまな憶測や誤解された情報の伝達が先行した経緯もあり、当初の計画通りには決して進んでこなかった。

事前に、羽村市を訪問し、バイオガス発電所の建設に対するご意見を頂戴した。当時、弊社はいろいろな自治体とバイオガス発電設備導入についての相談を行っていたが、羽村市の対応はそれらとは違い、環境事業に対して非常に前衛的な考えであった。当然、近隣の方々の最大限の配慮も必要だとのこと指導もいただいたが、そのような考え方は、昔からあった羽村市のごみ問題の課題と、それに対して真摯に解決をしてきた経験から来ているのだと後にわかった。

具体的には、羽村市において、食品リサイクルは重要課題として検討すべき事項であり、廃棄物処理は必要悪ではなく、新しい環境産業と捉え、手続きに対して法的に問題がなく、十分に地元の方々と合意形成が諮られているのであれば、市としてそれを推進することは至極当然で、そこには、新規雇用であったり、環境教育の場であったり、市としても十分なメリットが得られる、というご説明をいただいた。

当社としても、羽村市の意向を念頭に、地元住民・近隣企業・行政・関係会社に対して、誠意をもって、話し合いながら、合意形成を諮っていった。

結果としては、事前相談から、行政手続きを経て、建設終了まで約4年という年月がかかったが、当社としても慌てることなく、腰を据えて、地元の方々と十分に向き合ってやってこられたのではないかと考えている。



* 羽村プロジェクトの概要

本事業は、関東圏の食品工場から排出される食品廃棄物を原料としており、これらを発酵処理することで発生させたバイオガスを使用して発電を行う事業である。

この施設は1日 80 tの食品廃棄物の処理を行い、発電容量は 1,100kW、年間発電量として約 770 万 kWh（一般家庭の約 2,100 世帯分の年間電力消費量に相当）の電力を供給することができる。都内では 2 例目で、多摩地域では初めての大型食品リサイクル施設となる。

* 今後の取り組みと展開

弊社は近い将来、食品廃棄物の受皿として、メタン発酵施設の普及は絶対に必要であるという事を確信している。また、地域へ根差した施設は地元雇用を促進し、地域の活性にもつながるまさに地方創生に寄与する事業である。そのためにはさまざまな他業種の技術や知見を活用

し、連携しながら新しい食品リサイクル・ループを確立し、スピード感をもって生産性の高い静脈産業を作り上げていくことが重要であり、その一端を担えるように尽力していきたいと考えている。

まずは、羽村バイオガス発電所を地元にとってなくてはならない、安心安全な施設として操業稼働し、しっかりと地元貢献をしていくことで未来につながる施設にしていきたい。

羽村バイオガス発電所概要

施設名：羽村バイオガス発電所
 所在地：東京都羽村市緑ヶ丘3丁目3-3
 地 目：工業専用地域
 面 積：1,000 坪
 運営主体：合同会社 羽村バイオガス発電所
 設備能力：産業廃棄物（動植物性残さ・汚泥・廃酸・廃アルカリ・廃油）
 一般廃棄物（厨芥類等）
 処理量：日量 80 トン
 発電量：約 850 万 kWh / 年（一般家庭の約 1,550 世帯分相当）
 オペレーション：株式会社西東京リサイクルセンター
 プロジェクト企画・運営：アーキアエナジー株式会社

